

1 社会・治安情勢

- (1) 2017年11月に実施された大統領選後、開票プロセス等をめぐって全国各地で大規模なデモや道路封鎖が実施され、警察部隊と衝突する事案も多く発生した。
- (2) 2019年中は、4月末から6月末まで、教育・保健システム転換・再構築法案の反対や関連法案の廃止を求めた教育・医療従事者によるストライキやデモ・道路封鎖等の抗議活動、大型貨物の料金所通行料金の値下げを要求した運送業従事者による全国規模の道路封鎖等が頻繁に実施され、一部参加者が、警察部隊への投石、公共施設等への放火や襲撃、商店等に対する略奪行為が行われるなど暴徒化し、死傷者も発生した。6月中旬には、警察官の処遇改善を求め、国家警察の一部警察官によるストライキが発生した。
- (3) 1月から3月にかけては、ホンジュラス対汚職・無処罰ミッション（MACCIH）の任期終了が確定したことを受けた抗議活動、VIPタクシー（無線タクシー）合法化に反対した全国規模の抗議活動が発生している。
- (4) 現在、上記関連のデモは沈静化しているものの、今後、新交通法の制定、選挙法の改定等、一部の国民の反発を受けて、再度、デモが活発化する可能性は否定できない。
- (5) 昨今では、学生活動家グループ（※特にホンジュラス国立自治大学（UNAH）グループ）が他の活動等に乗じてデモを実施し、タイヤを燃やす、投石する等暴徒化している。また、公共施設や飲食店等への放火や襲撃等の多くが、同学生活動家グループが関係していると報じられている。
- (6) 引き続きデモ及び道路封鎖箇所には近づかない、移動に当たっては事前に当館領事関連情報（領事メール等）をチェックするなど注意を要する。

2 一般犯罪、凶悪犯罪の傾向

- (1) ホンジュラス国立自治大学に属する暴力国立研究所（ONV）によると、2019年中の殺人事件による死者数は、4,096人（前年比+363人）で、10万人当たりの殺人事件による死者数（以下、「殺人率」と称す）は44.7人（同+3.3人）。2012年以降減少傾向にあったが、昨年、初めて増加に転じた。当国の殺人率は、中南米・カリブ諸国21ヶ国中3番目に悪く、また、世界保健機構（WHO）が発表する殺人率の世界水準は8.8人であることに鑑みても、非常に高い水準で発生している。
- (2) 殺人事件の約73%は銃器を使用したものである。また、昼夜を問わず殺人事件が発生している。
- (3) みかじめ料の支払いを拒否したことによる、犯罪組織からの報復と考えられるバス、タクシーなど公共交通機関関係者に対する殺人、銃撃、放火事件も引き続き発生しており、「ラピディート」と呼ばれる乗り合いバス（公共バス）や流しのタクシーは使用せず、安全な交通手段（無線タクシー等）での移動を勧めている。
- (4) 銃器を使用した強盗事件も、引き続き首都圏全般で発生しており、徒歩での移動も極力避け、車両での移動を勧めている。
- (5) 2018年中の窃盗・強盗事件は、14,384件（前年比+2,193件）で、1日平均約65件発生している。警察に届出る文化も根付いていないことから、数値以上に発生していると思料される。（※2019年の窃盗・強盗事件は未発表。）
- (6) コカイン、マリファナが大量押収されるケースは続いており、東部密林地帯等で薬物精製所、密輸用滑走路も発見されていることから、当国が、他の中南米諸国からの薬物の中継地及び精製拠点として位置付けられている状況は変わっていない。最近では、国内でマリファナ等の栽培も確認、摘発されている。

3 最近の邦人及び邦人以外の被害事案

(1) 邦人の被害事案

特になし。

(2) 邦人以外の被害事件

ア 1月7日午前、国家警察交通局（D N V T）事務所内において、交通違反を犯し運転免許証を押収された男性が、女性警察官を人質に取り、立て籠もる事案が発生した。警察官により、約1時間、人質を解放するよう説得するも応じず、警察官により射殺された。

イ 1月20日早朝、テグシガルパ市内で、ティロアルケ～セントロ～ラソサ間の乗り合いバス（ラピディート）が襲撃され、運転手が死亡した。

ウ 1月24日午後、バジェ県サンロレンソ市において、テグシガルパ市～ Cholteca 県 Cholteca 市間のバス車内で、乗客を装い乗車していた3人組男性が、乗客らから金品を強奪し逃走した。

エ 1月25日午後、コルテス県サンペドロスーラ市において、バス車内で強盗事件が発生。車内で乗客の1人が強盗犯に向け銃を発砲し、犯人が負傷した。

オ 1月28日、テグシガルパ市コマヤグエラ地区において、エスカニート～エプロヌエボ間の乗り合いバス（ラピディート）が襲撃され、運転手が死亡した。

カ 2月7日午後、コルテス県サンペドロスーラ市において、車両を運転していた会社経営の男性が、バイク乗車の2人組男性にけん銃を突きつけられ所持品を強奪された。

キ 2月12日午後、テグシガルパ市内において、メルカード～ロスピノス間の乗り合いバス（ラピディート）が襲撃され、運転手及び集金人が死亡した。

ク 2月18日午前、テグシガルパ市コマヤグエラ地区において、セログランデ～U N A H～ラソサ間の乗り合いバス（ラピディート）が襲撃された。なお、

負傷者はなし。

ケ 3月3日午後、フランシスコモラサン県タランガ市において、飲食店に3人組の男性が強盗に押し入り、駆けつけた警察官と銃撃戦となり、犯人グループのうち1名が死亡した。

コ 3月12日深夜、テグシガルパ市コマヤグエラ地区において、男性がバイクで走行中、強盗被害に遭いバイクが強奪され、さらに男性もけん銃で撃たれ死亡した。

4 テロ・爆弾事件発生状況

特になし。

5 誘拐・脅迫事案

日本人に対する被害はなし。

6 日本企業の安全対策に対する諸問題

- (1) 一般的にホンジュラス人の対日感情は大変良好であり、日系企業をターゲットとしたテロ等の発生可能性は低い。しかし、日本人企業家を対象とした強盗等は過去に発生しており、一般・凶悪犯罪に対しては十分な注意が必要である。
- (2) 危険度2地域に、商用等で来訪する場合には、事前に十分な情報を収集し、適切な安全対策を行うことが重要である。
- (3) 犯罪被害に遭わないためには、国内の危険地区を十分に把握し、その地区には近づかないことが肝要である。当該地区での業務予定がある場合は、現地治安機関及び日本大使館から十分な治安情報を収集することが重要である。